

議会だより

82

のとちょう

2026.5.1

復旧・復興経費として219億円を計上 … 2-3

ここがポイント

- (広報委員が注目する令和8年度当初予算!) … 4
- 「なごみ」廃止条例に討論 … 5
- 常任委員会レポート … 6-7
- 一般質問 (7人が登壇) … 8-13
- 議場開放を行いました … 14
- 主な議会活動 … 15
- まちかどインタビュー
- 編集後記 … 16



900万円 して219億円を計上!

早期復旧・復興を最優先とし、 令和8年度当初予算を可決した

令和8年度の重点事業

災害公営住宅整備事業	29億4268万円
災害公営住宅（白丸団地）敷地造成工事	3億2700万円



災害公営住宅（白丸団地）の建設予定地

【新】道の駅桜峠再整備事業	820万円
【新】防災備蓄倉庫整備事業	5067万円
【拡充】地域づくりイベント補助事業 ※「石川さゆり復興応援特命大使による復興コンサート」も含む	3040万円
【新】ふれあいの里施設 ポケモン遊具整備事業	1780万円
【新】認定こども園主食費無償化事業	903万円
【新】能登創生住まい支援事業（新築・購入・修繕）	1億7200万円
【新】子育て世帯住宅取得支援事業	1200万円
【新】地域課題解決ビジネス創出事業	770万円
【新】事業継承支援事業	583万円
【新】復興まちづくり活動支援事業	150万円
【拡充】関係人口創出事業	538万円
【拡充】官民連携推進事業	660万円
【新】復興観光拠点整備等推進事業	1億1760万円
【新】就学前教育・保育施設整備交付金事業	3045万円

令和8年第2回能登町議会3月定例会議を3月6日から18日にかけて開会し、町長提出議案41件、人事案件3件が提出された。議案は令和8年度の当初予算のほか条例改正や請負契約の締結などであり、全議案を可決した。人事案件については、初日に採決し同意とし

た。最終日には請負契約の締結にかかる追加議案5件が提出され、原案を可決した。16日には7人の議員が町政全般についての一般質問を行った。

一般会計390億 うち復旧・復興予算と

能登半島地震、奥能登豪雨からの 「能登町復興計画」を着実に実行する

その他の主な議案

○請負契約の締結

- | | |
|--|----------|
| ・令和7年度能登半島地震復旧事業 能登町文化財収蔵庫災害復旧工事 | 株式会社 鼎建設 |
| ・令和7年度6災858号 小浦漁港災害復旧工事 | 鈴平建設株式会社 |
| ・令和6年1月1日発生能登半島地震災害復旧事業
4630/6006・6176農地・施設災害復旧工事 | 北能産業株式会社 |
| ・令和7年度能登半島地震復旧事業 能登町立柳田公民館災害復旧工事 | 北能産業株式会社 |

○固定資産評価員の選任

野口 隆 氏(寺分)

○固定資産評価審査委員会委員の選任

江端 由爾 氏(石井)

○教育委員会委員の任命

濱高 芳美 氏(鶴川)

1月会議

物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業として、

- ・ひまわりポイント付与事業
- ・水道基本料金無償化事業補助金

このほか、能登半島地震で被災した急傾斜地崩壊対策事業費などの補正予算、請負契約の締結7件を可決した。





被災の記憶・記録の継承

能登半島地震の対応を検証し、教訓と事実経過をまとめた記録誌の発刊、津波被害を受けた旧白丸郵便局を震災遺構として整備する。被災地だからこそできる防災教育や視察の受け入れで町の活性化を図れ！



田端議員



災害公営住宅の早期整備を

仮設住宅での生活も2年となり、早急な災害公営住宅の整備や住宅再建への支援が重要。

空いた仮設住宅の有効利用など臨機応変な対応と、住宅再建への支援とその周知を図れ！

住宅の再建には様々な予算がついています。町民の皆さまには、申請もれのないよう気軽に役場へお越しいただき相談を受けていただきたい。



小路議員

広報委員が
「注目する令和8年度
当初予算はコレ！」



復興まちづくり活動支援事業の活用を

多くの予算のなかで、町民が企画・行動する事業の支援を行う予算である。

地域のコミュニケーション力UPで、復興を加速する取組みや勉強会（研修会）など、町民自らが力をつける事業に活用せよ。



小浦議員



第1次産業の事業支援を

農地・農業用施設災害復旧事業、漁港施設災害復旧事業では、多額の予算を投じて復旧を目指すことは、農業者・漁業者の希望となり、ありがたい。しかし、少子高齢化が進むなか、復旧後の、営農継続や漁業の支援について要望を聞き、能登町の第1次産業を衰退させないよう支援を求めらる。



南議員



同窓会応援事業の活用を

23歳～45歳の同級生による同窓会開催に対し、参加者1人当たり2,000円を助成する事業。将来的には、年齢制限の見直しや、場所も学校を使うなどできると面白いのではないかと。ぜひ活用し、活性化につなげていきたい。



馬場議員



新防災倉庫整備で災害に強いまちづくりを

新防災備蓄倉庫がながさかパーク内（藤ノ瀬地内）に整備される。防災備蓄倉庫の整備により、震災を経験した町だからできる災害に強いまちづくりを進めよ。



向峠議員

「なごみ」廃止条例について討論！

3月定例会議の最終日に、議案第39号 能登七見健康福祉の郷「なごみ」の設置及び管理に関する条例の廃止について、馬場議員が反対討論を行った。

反対討論

馬場 等 議員



条例の廃止により、これまで「なごみ」が担ってきた健康増進、介護予防、地域交流、さらには避難所としての機能が失われる。現在も交流棟では、食堂の営業や地域イベント、子ども食堂など、地域に根ざした活動が行われており、地域のつながりや支え合いの機能の低下につながる。

また、鶴川地区は復興計画において地域拠点として位置付けられており、地域拠点としての機能を、どのように維持・確保していくのかを明確にした上で、施設のあり方を検討するべきである。

今回、「なごみ」の再建を求めて、約1000名の署名が集まった。これは単なる要望ではなく、地域の将来に対する強い思いの表れであると考えられる。こうした状況の中、施設の廃止を前提とした判断を進めることは、住民の理解が十分に得られているとは言えない。

本議案は、一つの施設の廃止という問題ではなく、この地域にどのような暮らしを残すのかという町の姿勢そのものが問われる問題である。もう一度地域と丁寧に協議する場を設け、その上で方向性を検討するべきである。

令和8年第1回1月会議の審議結果 (賛否の分かれたもの)

賛成 ○、反対 ×、欠席 欠、— 議長は採決に参加しません。

結果可否	議案	議員名	松本光雄	小浦肇	馬場等	田端雄市	金七祐太郎	南正晴	市濱等	小路政敏	酒元法子	河田信彰	向峠茂人	志幸松栄	鍛冶谷眞一
可決	議案第4号 議会議員等の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について		×	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
可決	議案第5号 常勤の特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について		×	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
可決	議案第6号 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について		×	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
可決	議案第7号 一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例について		×	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
可決	議案第8号 請負契約の締結について		×	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
可決	議案第9号 請負契約の締結について		×	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
可決	議案第10号 請負契約の締結について		×	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
可決	議案第11号 請負契約の締結について		×	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
可決	議案第12号 請負契約の締結について		×	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
可決	議案第13号 請負契約の締結について		×	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
可決	議案第14号 請負契約の締結について		×	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○

令和8年第2回3月定例会議の審議結果 (賛否の分かれたもの)

賛成 ○、反対 ×、欠席 欠、— 議長は採決に参加しません。

結果可否	議案	議員名	松本光雄	小浦肇	馬場等	田端雄市	金七祐太郎	南正晴	市濱等	小路政敏	酒元法子	河田信彰	向峠茂人	志幸松栄	鍛冶谷眞一
可決	議案第39号 能登七見健康福祉の郷「なごみ」の設置及び管理に関する条例の廃止について		×	○	×	欠	○	○	—	○	○	○	○	○	×



議案をチェック

3月定例会議の
議案質疑

田端雄市 議員

繰越明許費149億円が計上されているが、繰越となった理由と主な事業は。

企画財政課長

令和7年度に予算を計上したが、年度内に工事完了ができなかった事業を令和8年度に繰越して執行する事業が149億円ありある。災害復旧工事にかかる設計業務の遅れ、建設資材の調達遅れなどの影響により年度内の完成が困難となった。主な事業は道路、河川、漁港、農地・農業施設災害復旧工事である。

馬場 等 議員

能登七見健康福祉の郷「なごみ」の設置・管理に関する条例を廃止すると、健康福祉施設としての機能を失うのか。また現在、交流棟ではNPO団体が活動を続けており、活用方針が確定していない段階で、条例の廃止を先行して行う理由は。

健康福祉課長

能登半島地震により、浴場、プール棟は大規模に損壊し復旧が困難である。健康増進施設としての機能を有していないため、条例の廃止を提出した。

現在、交流棟で活動しているNPO団体は令和8年度で活動を終了する予定である。令和9年度以降の交流棟のスムーズな活用のため、日程的に令和8年度中に公募を実施する必要がある。また、普通財産とすることで、広く公募をかけることができることから、今回、条例の廃止議案を提出した。

予算常任
委員会

志幸 松栄 (委員長)
向峠 茂人 (副委員長)
(委員は議員全員)

児童措置費1090万円の減額の理由は、町外転出によるものか。

町外転出もあるが、出生数の減が主な要因である。

公立学校施設災害復旧費と松波小学校新築復旧事業との予算額の差5億4000万円の理由は。

資料高騰により入札が不調となったため債務負担行為を計上し、4月の入札を予定している。増額は材料費・労務費の高騰を反映したものである。

公立学校施設災害復旧費2億5800万円の内訳は。

松波小学校仮設校舎のリース料である。

松波小学校が将来負の遺産とならない根拠は。

DXなど教育環境を充実させ、避難所機能を備え永続活用される施設とする。

松波小学校に33億円の投資や仮設校舎リース料の経費を踏まえ、宇出津小学校へ統合する考えは。

令和4年の町立学校基本計画策定時の推計では児童数の減少率は小さく、地域における学校の役割も踏まえ、既定の方針どおり進める。教育環境を充実させ地域開放による利用や、避難所機能も備えることで将来的にも活用される施設とする。

松波小学校建設費の債務負担行為額33億円について、地方債は何を使うのか。

災害復旧事業債を活用する。充当率100%、交付税算入95%であり、実質的な町負担は極めて

少ない。
宇出津小学校体育館など学校施設の不具合対応を求める。

町長と協議のうえ対応する。

白丸地区高台団地整備事業の自力再建区画の分譲数と元の土地の対応は。

5区画を希望者に分譲する。元の土地について町の対応は行わない。

復興観光拠点整備事業の内容は。

民間事業者による観光物産拠点整備に対し、県50%・町30%を補助する公募については、広報誌・ホームページ等で周知する。

予約制乗合タクシーにAIオンデマンドを導入することにより何が変わるのか。

予約制乗合タクシーにAIを活用した運行管理を導入し、町民に加え観光客もアプリで予約可能とする。

ひまわりポイント事業の状況は。

カード保有者は約1万1000人となった。予算不足の可能性があり、必要に応じて補正で対応する。

財務会計システム更新は庁舎全体か。

電子決済・ペーパーレスと連携し、庁内全体の基幹システムとして構築する。DXの推進により大幅な効率化が見込まれる。

海洋漁業科学館の開館時期と委託料について。

現在、開館していないが内部活動は継続している。

病院の患者数見込みと黒字化目標は。

前年実績ベースで算出し、実態と乖離しない数値を設定している。黒字化目標は設定していない。

感震ブレイカー設置助成の手続きが煩雑ではないか。

簡略化した要項を整備する。

総務産業 建設委員会

馬場 等 (委員長)
小浦 肇 (副委員長)
松本光雄 南 正晴
酒元法子 河田信彰
志幸松栄

問 能登町過疎地域持続的発展計画において、事業主体から定住促進協議会を削除した理由は。

答 本来、町が行うべき業務であるため、事業主体を「町」とした。

問 漁業用燃料の価格高騰や、外国漁船の違法操業などにより、定置網漁業においては資源管理の難しさもあると思うが喫緊の課題はなにか。

答 資源確保については、稚魚の養殖や稚魚の放流

等が水産協議会で運営されている。また、外国人漁業実習生の受け入れ、陸上養殖等の施策を引き続き講じていきたい。

問 ビジネスホテル誘致条例について、宿泊施設の集約と民間譲渡、民間活用とあるが。

答 ビジネスホテル誘致条例等により、民間の力を活用して地域活性化を図りたい。

問 農地・施設災害復旧工事(小間生ほか地内)の完了はいつ頃か。

答 今回の契約の締結では、令和8年3月31日までの工期を、繰越により令和9年3月31日までとする。農業用水については、今年度は当面、仮設ポンプで対応する。

問 能登町への移住者の人数は。

答 今年度の速報値は、16世帯17名である。定住促進協議会で、住まいや仕事の希望を聞き取り、その方に合った集落や仕事を丁寧に紹介している。



能登町定住促進協議会

問 能登町営住宅条例の一部改正において、波並町営住宅、鶴川団地には何世帯残っているのか。

答 波並町営住宅の入居者はすでに他へ転居していただいております。今回、条例の廃止となった。鶴川団地については2世帯が現地での居住継続の希望があり、解体はできない状況である。

問 能登町公共下水道条例の一部改正において「災害その他非常の場合」とあるが、「その他非常の場合」とは何を指すのか。

答 基本的には災害を想定している。町の指定業者が対応困難と判断した場合も含まれる。

教育厚生 委員会

向峠茂人 (委員長)
小路政敏 (副委員長)
田端雄市 金七祐太郎
市濱 等 鍛冶谷眞一

問 マイナンバーカードの更新はどこで対応できるのか。

答 混雑を避ける目的と過去の実績により、能都郵便局で対応できるように指定した。役場窓口や総合支所、支所でも更新できる。新規作成については、役場と総合支所、支所で行う。

問 保育所での主食費の無償化により、これですべて無償となるのか。

答 国の無償化対象外である0〜2歳児の保育料は、令和8年度も引き続き町独自で減免し、無料とする。副食費の助成に加えて、主食も無償とすることですべて無料となる。

問 「なごみ」の設置条例の廃止は機能がなくなったから廃止なのか。今後、残す箇所についてはどうするのか。

答 浴場・プール棟は大規模に損壊しており、安全性を考慮した。修理に多

額の費用もかかるため、個別施設計画の方針を遂行した。今回の条例廃止により、普通財産とすることで、使用可能である交流棟(レストランと和室)の民間公募がしやすくなる。



被害の大きかった「なごみ」プール棟

問 「なごみ」の再建に對して地域からの署名活動があったと聞いている。条例廃止のタイミングは正しかったのか。

答 地区別住民懇談会や、個別施設計画再編の方向性を決めていく過程においても主だった反対意見はなかった。公共施設マネジメント委員会に諮問し、答申を受けて、今回条例廃止を提出した。提出のあった要望書は、庁内で協議し、回答した。

いっぱん質問

議員が、町の一般事務に対してその執行の状況または将来の方針、政策的提言や行政への批判などを執行者に直接質問することです。

3月定例会議の一般質問（16日）

問 防災会議、委員増員の理由は

答 女性の視点を反映させる



ぼ馬場 ひとし 議員

問 3月定例会議において、能登町防災会議条例の一部を改正する条例が提出された。今回の改正では、防災会議の委員数を13人以内から20人以上と増員することとしている。その目的及び期待される効果について問う。

答 町長

防災会議における女性参画の促進に加え、令和8年度に見直しを行う能登町地域防災計画において、女性や医療・福祉の視点を反映させ、実効性の高い計画にしたいと考えている。



町防災会議の様子

具体的には、女性の視点を反映させるため、現場職員の管理職、消防団員、防災士の構成員等の参画を想定している。また、高齢者、障害者など災害時要配慮者の視点を反映させるため、医療関係者、福祉関係者の参画も想定している。

問 新防災備蓄倉庫の立地条件は何か

答 震災の経験を踏まえたものである

問 新防災備蓄倉庫の場所を「ながさかフルーツパーク」に決定するにあたり、どのような基準で検討を行ったのか。

を備えた物流拠点施設として整備するものである。幹線道路からのアクセスに優れ、大型トラックが容易に乗り入れることができ、かつ6台程度が待機可能で、約1000平方メートルの倉庫が建設できる用地として「ながさかフルーツパーク」を選定した。

答 町長

新たな備蓄倉庫は、備蓄機能に加えて発災後の支援物資の受け入れ機能

その他質問

問 能登七見健康福祉の郷「なごみ」の温泉・プール棟の除却方針は、地震による被害状況や立地条件、安全性といった個別施設の問題による判断なのか、それとも公共施設配置や地域拠点のあり方を見据えた政策判断なのか。

答 町長

被災状況の甚大さと復

旧に要する多額の経費が主な理由である。復旧には10億円を超える事業費が見込まれ、災害公営住宅の整備など住まいの確保が最優先であると強く認識している。また道路、上下水道、学校など優先的に復旧すべき施設が多く残されている状況において、今回、なごみの温泉・プール棟に多額の費用を投じることは難しいと判断した。



たばた ゆういち
田端 雄市 議員

問 中退共制度の助成事業と実績を問う

答 事業所の振興に寄与 114 名の実績

町内の事業所は、地域間格差と事業所規模という格差で、競争を強いられている。中退共制度（中小企業退職金共済制度）の有効的活用が就業・雇用環境を良くしていく要因となる。制度の趣旨と実績を問う。

問

ふるさと振興課長 中小企業退職金共済制度は、独力で退職金制度を設けることが困難な事業所が、国の援助によって、退職金制度を設け、従業員の福祉の増進を図り、事業所の振興に寄与するものである。実績については、令和4年度から現在まで、42事業所で、114名の方に利用していただいている。

答



事業所福利厚生向上を（イメージ）

問 奨学金返済助成事業を問う

答 補助金により若者の定住促進を図る

問

奨学金返済助成事業について制度の詳細と今後の取り組みを聞く。昨今は、奨学金返済の状況が若者の結婚の障害になっているとも聞く。若い人が将来に希望を持ち、安心して暮らしていけるような支援の継続を求める。

答 ふるさと振興課長

大学卒業後に町内に定住し、町内の事業所に就業する方で、奨学金の返済を行う方に対して補助金を交付し、若者の定住促進を図る事業である。奨学金返済額の3分の2を最長5年間、最大200万円を補助するもので、令和7年度の事業開始から1名が利用している。町のホームページや広報で周知しているが、今後、町公式LINEやチラシなども活用し周知を図りたい。

その他質問

事業所支援として、もっとも重要なのは、賃金引上げに対する支援である。町の支援は。

答 町長

最低賃金の引上げは、働く方々の生活の安定と向上に資するものであり、地域経済の活性化という観点からも重要である。一方、事業者にとっては、人件費の増加が直接影響し、特に震災からの復興途上にある事業者の負担感は大いものと受け止めている。今後は、商工会とも連携し、国、県の制度の周知、活用を促進したい。

解体跡地の活用・支援の考えは。

答 ふるさと振興課長
空き地の利用促進や景観保全のため、空き地情報登録や管理を行う制度設計を予定している。



しごう しょうらい 議員
志幸 松栄

問 定住につながる就職準備金支給を

答 他自治体の事例を注視し検討する



就職準備金制度を設けている介護職
(イメージ)

問 能登町で就職する方に対して、1次産業・2次産業・3次産業に限らず生活基盤を整えるための就職準備金を支給してはどうか。町長が考える定住につながる施策と、思い描く町の将来像は。

答 町長

現在、町では、介護職員を対象として就職準備金制度を設けている。議員の提案については、今後、他の自治体の事例を注視し検討したい。定住の施策については、より多くの方に能登町を深く知ってもらうことが最優先であると考えている。能登高校での「ふるさと企業を知る会」の継続開催や、まちづくり担い手育成事業等を通して将来の定住につなげていきたい。



通行止めとなっている宇出津第3隧道

問 震災以降、宇出津第3トンネルは崩壊状態となっている。現在の状況と今後の計画、開通見込みを問う。

答 建設水道課長

町道1級宇出津8号線の第3隧道は、トンネル本体は崩壊していないが、出入口付近は法面が大きく崩落しており、現在も通り抜けできない状況となっている。また国道249号との接点までもう1箇所道路の崩壊箇所があり、併せて発注の準備を進めている。令和8年度中の開通を目指している。

問 宇出津第3トンネルの開通は

その他質問

④あばれ祭を国無形民俗文化財へ申請し、全国に発信を。

答 町長

あばれ祭は平成元年に石川県指定無形民俗文化財となり、平成27年には、日本遺産に認定され、「きりこ祭り」の主要な構成要素となっている。現在も国立歴史民俗博物館での常設展示が行われており、県内外からも高く評価されている。また文化庁から「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」にも選択されている。国の指定については、民俗学を専門とする有識者の意見を聞き、県と相談しながら、粘り強く努力していきたい。

⑤建設業者の宿泊施設などのために、町有地を提供することはできないか。

答 町長

利用可能な町有地の洗い出しを行うとともに、民間用地の情報提供も含め、復旧を加速させるために柔軟に対応したい。



おうら 小浦 はじめ 議員

問 棚卸資産の対象品と管理方法は

答 診療材料と医薬品SPD業務で管理

問

宇出津総合病院の棚卸資産はどのような物で、在庫数量・棚卸し管理方法は。

答 宇出津総合病院事務局長

棚卸資産には、診療材料・医薬品が該当し、在庫管理はSPD業務（院内物流管理業務）を専門業者に委託している。診療材料は、バーコードにより業者が正確な在庫数を管理している。定数品は、定期的に在庫数の見

問

現在の在庫管理方法で、更なる改善の余地はないのか。

答 宇出津総合病院事務局長

直しをしている。手術用材料は、SPDシステムと合わせ手術前に業者が必要数を補充している。医薬品については、SPDシステムにて在庫数・使用期限を一元管理し、使用期限が近付いた薬剤は、返品交渉を行うなど廃棄数を最小限に抑えている。患者の治療に支障が生じないように、また経営の効率化を図るよう努めている。

SPD業者委託により、省人化に効果があり、外来や薬局など補助診療部門は、各責任者が直接棚卸を実施し、高い管理レベルとなっている。

また職員の定期的研修会を設けミスが起こらないよう教育している。合わせてコスト意識向上として、適正管理の重要性を継続的に教育する。やむを得ず廃棄する物品は、記録・報告体制を「標準化」し、定期的に原因分析を行い廃棄削減に努めていきたい。



宇出津総合病院

問 特定健診の受診率と取組を問う

答 健康管理の必要性を周知し取組む

問

特定健康診査の必要性と受診率向上への取組みは。

答 健康福祉課長

特定健康診査は、高血圧や糖尿病など生活習慣病リスクを早期に発見し、当町に多い心臓病や、また脳卒中などの重症化を予防するため極めて重要である。特定健診が開始された年度は、受診率18・2%であったが、令和元年には47・2%に向上した。しかし、コロナ感染症の流行や能登半島地震で、現在30%台に低迷している。個別通知やオンライン予約、未受診者への電話勧奨、保険指導の強化を継続して実施している。

問

能登町の受診率は県内19市町で18番目に低い。受診率向上の課題と取組み、目標値は。

答 健康福祉課長

医療機関に受診していれば健診は不要なのではないかと考え方や、働く世代で健診を受けない人が多いことが課題として上げられる。

健康管理の必要性をPRし、医療機関での検査結果を健診データとして活用するみなし健診、個別勧奨、町内会への周知、土日健診などを実施し、令和11年度には目標受診率を60%に設定し、健康寿命の延伸を目指す。

その他質問

問 クロススポーツの再建で交流の場の機能強化を図れ。

答 町長

交流、定住のシンボル

であったクロススポーツについては、元の場所再建したいと思っている。コンテナハウスで再建する計画であったが、ミーティングやコアワーキングスペースを確保できない。

いことから、再度、検討を重ねている。なりわい再建支援制度の対象となることから、建設後の維持管理費を含め慎重に検討している。

問 人口減少対策を問う

答 産み育て住み続けたい環境整備を



ひがしむら なたかと 議員

問 前町政と人口減少対策の大きな違いは何か。

答 町長 前町政では、関係人口、交流人口の拡大を人口減少対策の柱として取り組んで来ており、私も取組の意義を十分に認識している。その実績を引き継ぎ、さらに発展させていく考えである。私が重点を置くのは、子育て世代を最優先に位置つけた定住促進である。震災と豪雨を経て人口流出が加速する中、若い世代が能登町で産み育て住み続けた



答弁に立つ吉田町長

と思える環境整備が急務であると考えている。令和7年9月から小中学校、令和8年度から保育所の給食費無償化を実施する。総合計画において教育DXの推進を掲げており、引き続き地域の特徴を生かした探究的な学習やキャリア教育にもICTを活用しながら、地元企業との連携も視野に入れ、子どもたちが豊かに学び成長できる環境づくりを進めていく。

問 奥能登の自治体との連携を聞く

答 課題に対応する連携を緊密に図る

問 震災後の人口減少問題で奥能登の首長同士での意見交換の場があったのか。

答 町長 人口減少は2市2町共通の喫緊の課題である。人口減少対策というテーマでの意見交換は実施していないが、人口減少対策を含め、防災、交通、広域観光など行政の枠を超えた課題を解決するために連携は不可欠であると考えている。この未曾有の災害からの早期復旧・復興を成し遂げるには今後も様々な行政課題に対応するため、2市2町との連携を緊密に図っていく。

問 地元3県議との連携が不可欠であるが町長の考えは。

答 町長 地元の3名の県議会議員との連携について災害からの復旧・復興はもろんのこと、様々な行政課題に取り組んでいくためには、連携は欠かせないものであると認識している。これまで以上に連携し、取り組みたい。

その他質問

問 担い手が経営する県営ほ場整備事業で整備した農地について湧水が発生し、耕作に支障が出ている。ほ場整備後の湧水対策はどのようなものか。担い手の離農を防ぐためにも対策を求める。

答 農林水産課長 県営ほ場整備場後の農地や水路、農道等の施設に不具合が生じた場合、県営ほ場整備の事業期間中であれば、県が湧水処理対策を実施するが、事業完了後は耕作者自身での改良か、町が事業主体となり基盤整備関係の事業で改良することになる。その際は役場農林水産課へ相談して欲しい。担い手の確保、育成については、現在は地震と豪雨による災害復旧に注力しており、復旧に目途がつき次第取り組む。

問 未来の漁業に役立つ基礎作りを

答 漁業権との関係で課題多く困難

問

①子供の頃、生活の一部として遊んだ海岸線を活かし、未来の起業を考えた放流・育成などの事業展開を提案する。

②漁業協同組合との話し

合いのため町からメンバー選出できないか。

③事業展開のための人手と資金の支援を望む。

答 農林水産課長

①能登町の海岸線は約48kmあり、海の恵みが豊富な自然環境である。海藻

や貝類を誰もが採取できるようにすることや、稚貝の放流・育成・採取へと事業展開を図るには、漁業権の制約があり、困難である。

②漁業者の権利、「なりわい」を守る漁業権があり、職員を選任することはできない。

③漁業権の制約により、人手や資金について支援・検討することはできない。



かじや しんいち 議員
鍛治谷 眞一

問 漁協の跡地はどうなるのか

答 県漁協とともにしっかりと進める

問

昭和49年完成した4階建ての漁協のビルは、解体され、現在は更地となっている。町の基幹産業、漁業の拠点として町民の関心は非常に高い。県漁協の組合長、役員は能登の基幹産業として、漁協再建築のための支援、要望を知事に伝えた。知事は変わっても約束は守ってもらいたい。現在の状況と今後のスケジュールは。

答 町長

漁協の再建築について、敷地を十分に確保するため、国の補助金を活用し海を10mほど埋め立てする計画をしている。また、事業主体である県漁業協同組合は荷捌き場、県漁協職員管理室、東日本信漁連を建設する計画であり、また周辺には製氷庫、燃油施設、冷蔵庫の配置を計画している。ただ、埋立工事の完了が必須のため、完成予定時期は未定である。

町の水産業にとって、再興のシンボルとなる重要な施設のため、しっかり進めていきたい。



解体され更地となった県漁協跡地



仮設卸市場（宇出津新港地内）

議場開放を行いました！

令和8年二十歳のつどいに合わせて議場開放を行いました。

二十歳を迎えられた皆さんと議員との懇談、議場での記念撮影や議会体験など、議会や政治を身近に感じてもらえるよう取り組んでいます。

また、二十歳の皆さんの希望や町に望むことなどを書いてもらいました。

主な内容

- ・免許、資格を取ります！
- ・町に音楽ホールがあればいい
- ・飲食店が増えてほしい



議場での議会体験や、記念撮影をする二十歳のつどい出席者

視察受け入れ

令和8年2月3日（火） 沖縄県市町村自治会館管理組合の一行が行政視察研修に訪れた。

能登半島地震、奥能登豪雨災害の被害状況、復旧に向けた取り組みについて、町職員が説明し、松波小学校仮設校舎などを見学した。現地視察には、田端副議長が同行した。



行政視察に訪れた沖縄県市町村自治会館管理組合の皆さま



松波小学校仮設校舎の見学

1月から3月の主な議会活動

1月4日	消防団出初式
1月11日	二十歳のつどい
1月21日	広報編集特別委員会
1月27日	石川県町村議会議長会臨時総会（KKRホテル金沢）
1月30日	議会運営委員会・議員全員協議会・ 第1回能登町議会1月会議
2月3日	沖縄県市町村自治会館管理組合行政視察受け入れ
2月26日	議会運営委員会
3月3日	議員全員協議会
3月6日	第2回能登町議会3月定例会議（議案上程）
3月9日	予算常任委員会（～10日）
3月11日	総務産業建設常任委員会・教育厚生常任委員会
3月16日	第2回能登町議会3月定例会議（一般質問）・ 議会運営委員会
3月18日	議員全員協議会・第2回能登町議会3月定例会議（採決）・ 議会運営委員会
3月26日	石川県町村議会議長会議長協議会・石川県市町議会議長公 務災害補償等組合議会定例会（KKRホテル金沢）

令和8年出欠状況表

○…出席 欠…冠婚葬祭 通院 私事都合等により欠席 公…他の公務あり 一…対象外 オ…オブザーバーとして議長が出席

月 日	会議名	議員名												
		松本 光雄	小浦 肇	馬場 等	田端 雄市	金七 祐太郎	南 正晴	市濱 等	小路 政敏	酒元 法子	河田 信彰	向峠 茂人	志幸 松栄	鍛冶谷 眞一
1月21日	広報編集特別委員会	—	○	○	○	—	○	—	○	—	—	○	—	—
1月30日	議会運営委員会	—	—	○	○	—	—	才	—	—	○	○	○	○
1月30日	議員全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1月30日	1月会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2月26日	議会運営委員会	—	—	○	○	—	—	才	—	—	○	○	○	○
3月3日	議員全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3月6日	3月定例会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3月9日	予算常任委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3月10日	予算常任委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3月11日	総務産業建設常任委員会	○	○	○	—	—	○	—	—	○	—	○	—	—
3月11日	教育厚生常任委員会	—	—	—	○	○	—	○	○	—	—	○	—	○
3月16日	3月定例会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3月16日	議会運営委員会	—	—	○	○	—	—	才	—	—	○	○	○	○
3月18日	議員全員協議会	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3月18日	3月定例会議	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3月18日	議会運営委員会	—	—	○	欠	—	—	才	—	—	○	○	○	○



インタビュー

宇出津地区の波島商店の一角には、地域の声が自然と集まる場がありました。

今回のまちかどインタビューは、宇出津地区の波島商店の店主である、橋口由紀子さんにお話を伺いました。
(インタビュー 馬場 等)



波島商店 店主 橋口由紀子さん

◆ **お店について教えてください。**
平成17年から、公立宇出津総合病院のそばで、

◆ **どのような話題が多いのでしょうか。**
身近な出来事から国際情勢、国や県、町の施策まで幅広いです。新聞の一面に載るような出来事があれば、すぐに話題になります。私は聞

「語らいから見える地域の本音」

介護用品のレンタルや販売、介護に伴う住宅改修などを行っています。

◆ **お店に人が集まっていると伺いました。どのような場になっているのですか。**

病院帰りや診察・薬待ちの合間に立ち寄る方が多く、お店の事務所で、ソファに座り、お茶を飲みながら賑やかに話が弾んでいます。7割ほどが女性です。仕事をされている方も多く、気軽に話ができる場となっています。議員が立ち寄ることもあります。



お茶を飲みながら会話を楽しんでいます

◆ **町や議会に対するご意見はありますか。**
次のような声が聞かれます。

- ・規則に縛られず、町民に寄り添った柔軟な行政運営を求める声
- ・運転免許証返納者の増加や路線バスの減便に対応するため、デマンドタクシーの増便を求める声
- ・イカキングのように観光面での新たな魅力づくりを求める声



波島商店外観 (宇出津総合病院のすぐ前にあります)

◆ **最後に、この場についてどのように感じていますか。**
誰でも気軽に立ち寄って話ができる場になっていて、うれしく感じています。皆さんの会話から、地域のことを思う気持ちが伝わってきて、私にできることを考えるきっかけにもなっています。

次の定例会議は6月8日開会予定です。

議会の日程については、決定しだい町のホームページ、町公式LINEでお知らせしています。

広報編集	
特別委員会	
委員長	小浦 肇
副委員長	小路 政敏
委員	馬場 雄等
	田端 雄市
	南 正晴
	向峠 茂人

編集後記
今回インタビューをお願いした橋口さんのお店には、自然と人が集まり、語らいの場が生まれています。町にはこうした場がいくつもあると聞きます。このような日常の語らいの中にこそ、地域の課題や思いが表れていると感じます。橋口さんの場に限らず、機会があれば、私もさまざまな場に足を運び、皆さんの声を伺いたいと思います。
(馬場 等)